

午前10時03分

○委員長（齊藤 佐知子）

- ・ 欠席委員連絡（福島委員、道畑委員）
-

午前10時03分開議

○委員長（齊藤 佐知子）

- ・ 開会宣告
 - ・ 議題の確認
-

1 調査事件

(1) 福祉コミュニティエリアにおける高齢者施設の今後の運営について

○委員長（齊藤 佐知子）

- ・ 議題宣告
- ・ 本件については、4月12日の委員協議会において、社会福祉法人善智会と株式会社ハーモニーの運営する高齢者施設は2か月程度入居受け入れを停止する予定であると説明を受けていたが、その後の経過と今後の運営について確認するため、理事者の出席を求めたいと思うが、よろしいか。（異議なし）
- ・ 理事者の入室を求める。

（保健福祉部 入室）

○委員長（齊藤 佐知子）

- ・ それでは、説明をお願いします。

○保健福祉部長（平井 尚子）

- ・ 福祉コミュニティエリアについて4月12日の委員協議会で報告させていただいたが、その後の経過について説明させていただく。
- ・ 前回報告したが、4月8日に社会福祉法人善智会の理事会が開催され、理事の交代や特別養護老人ホームの入居者の受け入れ延期と収支計画が承認となったことについて法人から報告を受けた後、正確な状況を確認するため4月13日に市から善智会理事長宛ての文書を発出した。内容としては、入居受け入れを見合わせる事となったこれまでの経緯や今後のスケジュールについて飯田理事長本人から市に説明していただきたいことや理事会及び評議員会の議事録など施設運営等に係る書類の提出を要請したものである。
- ・ その後、4月19日に飯田理事長名で市長宛てに回答の文書が郵送されたが、その内容としては実の母が東京で手術をするため、手術や予後に立ち会う必要があることや不具合があった施設周辺の外構工事を5月中に修了させるために施工業者等との交渉を行っており、5月上旬にその結論が出る見込みであることから、5月10日までは報告できるというものであった。
- ・ なお、届いた文書の内容について、議事録が提出できない理由など曖昧な点があったことから、法人の理事の方に指摘したところ、文書に不備な点があったことから修正し、文書を再提出したいとの

意向が示されたことから、4月24日付けで市としては、5月2日までに修正文書を提出するよう要請するとともに日吉コミュニティエリアの事業者の代表法人である医療法人善智寿会の代表者宛てに特別養護老人ホーム、認知症グループホーム、サ高住の再開の年月日を記した確約書、入居申し込み受け付けを再開する年月日を記した書面や入居申し込みの件数が把握できる書面、入居延期により申し込みがキャンセルされた事例の有無、職員配置の状況や給与の支払いが確認できる資料、こうした資料を求める文書を発出したところである。

- ・ なお、4月26日には、善智会に対し再度、理事長本人が来庁できる日時についても回答するよう要請したところである。
- ・ 5月2日になると4月13日に市が要請した文書の回答の修正文書が提出され、議事録が提出できないのは飯田理事長の署名が整わないことによるということが判明するとともに、同じく5月2日に飯田理事長名の文書で6月1日までに特別養護老人ホームにおいて入居受け入れを開始する誓約書が、また、認知症グループホームとサ高住を運営する株式会社ハーモニーの代表取締役名で同じく6月1日までに施設の入居受け入れを開始する誓約書が提出された。
- ・ また、入居受け入れの申し込み受け付けは施設の再開を前提としており、入居延期による受け入れ休止期間中も継続して行っていることや入院の必要性が生じたことなどによりキャンセルされた例はあったこと、職員配置や4月分の給与の支払われた状況、こうしたものも確認できたところである。
- ・ その後、5月7日のゴールデンウィーク明けになると、法人の理事の方から5月3日に善智会の理事会が開催され、飯田理事長が出席し役員の再編、工事の状況、平成30年度予算の再審議、理事長の交代などを議題とし、全て承認されたこと。その後、評議員会を開催し承認を得たと伺ったところであり、また、市が求めている4月8日の理事会の議事録などについても提出があり、飯田氏と新理事長から市への説明の日程についても5月9日にしたい旨の申し出を受けた。
- ・ 5月9日であるが、飯田氏の出席はかなわなかったものの善智会の新しい理事長である波多野 治氏、ハーモニーの代表取締役となった早川氏が来庁し、これまでの経過について説明があったほか、今後の運営は新たな体制で責任を持って行っていくことや波多野理事長からは秋頃までのできるだけ早い時期に千葉から住居を移し、函館を拠点にして取り組んでいきたいとの話を伺ったところである。
- ・ また、先週5月25日、福祉コミュニティエリア整備事業協定を締結している代表法人である医療法人社団善智寿会の新しい理事長が来庁しており、福祉コミュニティエリア整備事業についても理解をいただいているので事業計画を着実に進めていただけるものと考えている。
- ・ 市としては現在休止している施設が予定どおり6月1日から入居を再開する準備が進んでいることを確認したので、本日には特養を整備した社会福祉法人善智会に対し補助金を支払う段取りを進めているところである。
- ・ なお、今後については、さまざまな視点から助言などをしていくとともに福祉コミュニティエリア全体として、よりよい運営がなされるよう市としても各関係者と連携してまいりたいと考えている。

○委員長（齊藤 佐知子）

- ・ 保健福祉部長に申し上げる。前回4月12日にこのことに関しての委員協議会を行った。そして今日5月28日は2回目の今後の運営について今聞いているわけである。私どもには口頭での説明で資料

が全くありません。私はきょう当日何か資料があるのかと思っていたが、何もなかった。しかし、皆さんは何か見ているじゃないですか。皆さんには資料があつて、私ども議会にないというのはどういうことか。説明をしてほしい。

○保健福祉部長（平井 尚子）

- ・ 本日資料を用意できなかったことは申し訳ない。今後、きょうの内容をまとめて委員会のほうに資料として提出させていただきたいと思うのでよろしくお願ひしたい。

○委員長（齊藤 佐知子）

- ・ 委員会としては一連の今までの経過の資料を出していただきたいと私も思うが、委員の皆さんもそれでよろしいか。（異議なし）

○小野沢 猛委員

- ・ そうしてほしい。その資料の内容であるが、冒頭説明してもらったなかの議事録だとか新しい収支計画書だとかもろもろ相手方から提出されたものを一切——内容的には私も実は情報公開請求である程度持っているのだが——まあ可能な限り出していただくということでよろしくお願ひしたい。

○委員長（齊藤 佐知子）

- ・ 可能な限り出していただきたいと思っている。そして、今の時系列も——何日にどうした、何日にどうしたという——それはもちろんだがそれに対しての市の対応はどうだったのか、相手側の対応はどうだったのか、ぜひわかりやすい資料を作成してしていただいて私どもに提出していただきたいと思うのでよろしくお願ひしたい。今日はお聞きのとおり口頭のみという説明である。この説明について各委員から発言はあるか。

○能登谷 公委員

- ・ 資料がないのであれなんだけど、新聞等の報道によると理事長も含めてスタッフ1人を入れて理事が全部かわったという善智会の役員理事の話なんだけど、今まででこういう法人で施設を運営する直前にこんなに役員がかわった例があるのか教えてほしい。

○指導監査課長（小松 浩）

- ・ 多数の役員が交代された理事会があるのかというお尋ねだが、私も設立間もない理事会として多くの理事が交代されたという例は函館市内においてはなかったのかなとこのように考えている。全国的にはこういった例も存在するのかなと思うが、こういった状態については異例なのかなと受け止めている。

○能登谷 公委員

- ・ 委員長も言ったんだけど、異例なんだよね。異例な中で淡々と経緯、経過しかない。市の対応はこういう対応をしてきたのかという部分では大変だったとは思うんだけど、実際どうなんだろうと。今日、補助金を出すということだけでも補助金という部分を考えた時に実際に運営する主体がしっかりしているんだという判断はどこでしたのかということをお願ひしたい。

○指導監査課長（小松 浩）

- ・ 社会福祉法人善智会の役員の改編についてという主旨の御質問であるが、社会福祉法人善智会の役員の改編については、4月8日に3名の理事と1名の監事の辞任により、5月3日には1名の理事の

辞任に伴い役員の変更が行われたところである。現在の役員の構成については、社会福祉関係者とする波多野新理事長と飯田前理事長夫妻のほか、特別養護老人ホームの施設長と他の有識者からなる6名の理事と社会福祉や財務に識見のある2名の監事により構成されているところである。なお、函館市内に籍を置く理事は飯田前理事長夫妻を除いては特養の施設長1名となるが、波多野新理事長からは、秋ごろまでには函館に籍を移すという意向が示されているところである。

○能登谷 公委員

- ・ ということは、ほか何名かの理事は函館在住ではないと了解していいかな。(保健福祉部うなずく) 僕のところに来ているのは、1回入ったんだけどこういう工事があって出された。また出されるんじゃないかというような不安な部分は拭えない。特養に入りたい人は結構いるということでマスコミ等にも出ていたけど、また6月1日からやるということなんだけどもそういう部分の不安の払拭はできるのだろうか。

○指導監査課長(小松 浩)

- ・ 私どもこれまで2か月の休止を受けての対応について、いろいろ関係者と協議をしてきた。改めて今回の休止については外構工事が原因とする休止だと受けとめている。6月1日から再開するといった状況であるので、今後は職員が一丸となって、加えて市のほうも可能な限り支援を行いながら安定的、継続的に施設が運営できるようにこういった対応を私どもも続けてまいりたいと考えている。

○能登谷 公委員

- ・ これで終わるが、とにかく不安の払拭。それと今までマスコミの報道等でいろんな憶測が流れたり、うわさが流れたり、いいうわさが流れるんならいいんだけど悪い方向、悪い方向へというような形で話が進んでいるような気がしてならないんだよね。やっぱり福祉コミュニティというのは国の補助金を使っており、視察に来たいというところは全国的にいっぱいあると思うんだよね。そういう意味でもしっかりと経営をしていただくような形で常に皆さんの監視を——監視というのはおかしいけれど、函病なんかでも3、4か月ごとに厳しくやってきているから——経営の刷新ということをしつかり指導するというのをやっていかなきゃならないと思うけど、その辺はどうだろうか。

○指導監査課長(小松 浩)

- ・ 法人及び施設に対する指導監査等を徹底的に行うことという主旨の御質問だが、社会福祉法人善智会においては、6月に定時評議員会において決算が確定するという予定であるので、決算が確定後の早い時期に法人への指導監査を実施してまいりたいと考えている。また、新設の各施設に対しては介護保険上の実地指導を行う必要もあるので、実働開始から一定期間経過後の秋ごろに実地指導を行ってまいりたいと考えている。

○能登谷 公委員

- ・ わかった。やっぱり一番懸念されているのは人なんだよね。いわゆる人材確保というか介護員の確保という部分で。報道だけ見ると東京とか向こうから連れてくるということだが、今度連れてくるとなると地元との賃金格差とかそういういろんなことが出てくるんじゃないかと私は思うんですが、そういうことも含めてしっかりとした監査をお願いしたいと思う。以上で終わる。

○松尾 正寿委員

- ・ 千葉の波多野氏であるが詳しくわからないので、どうゆう人なのか説明してほしい。

○指導監査課長（小松 浩）

- ・ 波多野新理事長の職歴などといったお尋ねだが、現在、千葉市内でクリニックを開業されているというドクターである。函館にも若干ゆかりがあるということで身内の方がどうも函館にいるということもせんだって面会した際に聞いているところだ。いずれにしても現状、開業医であり、社会福祉的な関係にも一定程度明るい方と存じ上げているところだ。

○松尾 正寿委員

- ・ わかったけど、この方が善智会を支援するといった経緯はどのようなものか。

○指導監査課長（小松 浩）

- ・ 波多野新理事長がどういった経緯で今回理事長になられたかという御質問であるが、私どもがこれまで法人関係者並びに波多野新理事長のほうから聞いている話では、飯田前理事長と以前から親交があったと聞いており、前理事長が事実上職務を全うできないという中で、波多野新理事長に就任の要請があったと伺っているところだ。

○松尾 正寿委員

- ・ それはそれで結構だが、これも新聞報道なんだけど、波多野氏が言ったがどうかは記憶が定かではないけど、善智会というのは医療施設を含めてたくさんの施設を抱えているが、あまりにもたくさんの施設があり過ぎると。多少整理する必要もあるんじゃないかというニュアンスの報道もあったと私は記憶しているが、それに関して、例えばそういうことが行われたとすると入居者も大変なことになるだろうし、もちろん従業員の方も果たして大丈夫なんだろうかと不安を持っているということを何人かに言われた。市が支援するから大丈夫なんじゃないかと話したが、市として万が一、ないとは思いますが、もしあった場合、果たして市としてどういう対応をとってくれるのか聞きたい。

○介護保険課長（工藤 弥生）

- ・ 松尾委員が言った施設の減少については、株式会社ハーモニーに新たに代表取締役として就任される早川氏が発言して新聞報道に載ったものであると記憶している。
- ・ 介護施設の急な閉鎖に対する市の対応についてであるが、仮の話であるので実際どのような場面を想定するのは難しいものであるが、介護施設等が何の前ぶれもなく急な閉鎖という事態になったら市内の介護施設等から従業員の募集状況だとか入居の空き状況を収集して、法人、従業員または入居者などからの問い合わせに対応してまいるほか、特に入居者に不利益が生じないように法人に対して情報提供や助言をしてまいることになると考えている。

○松尾 正寿委員

- ・ 情報の提供だとかであって100%のサポートというか、例えばそこの従業員にこういう施設で求めているから行ってくださいというようなそこまで指導はできないのか。入居者もそうであるが、移ろうとした施設が満杯であった場合、行くところがなく不安になるが行政としてどのような対応をとってくれるのか。

○介護保険課長（工藤 弥生）

- ・ あふれた入居者に対しての市の対応についてであるが、入居者に不利益が生じないように法人に対

して情報提供さらに助言をしてまいりたいと考えている。

○松尾 正寿委員

- ・ 情報提供はいいんだけど、不安というのは施設がなくなった場合を言ってるんだ。早川氏が先月か先々月の新聞であまりにも善智会の施設が多すぎると。これでは運営していくのが大変で施設を何か所か閉鎖すると言ったかどうかはちょっと記憶にないが、そのようなニュアンスが新聞に載ってたんだ。それに対して、そこに勤めている従業員だが入居者だとかが——私は従業員の方から聞いたんだけど——私の勤めているところとか住んでいるところがなくなったらどうするんだと。それに対する市の対応というかどうかというふうにサポートをしてもらえるのかを聞きたい。

○指導監査課長（小松 浩）

- ・ 改めて事業所が閉鎖になる可能性がある場合の入居者及び従業員の方への対応という主旨の質問だが、まず入居者の対応については、私どもあらゆるネットワークを活用して各事業所の空き情報、さらにはそれぞれ施設に対しての受け入れの協力をお願いするという動きのなかで、これまでもそういった似た事例があり、いずれも何とか入居者のスムーズな移行、受け入れができてきたのかなと考えている。
- ・ 一方、従業員の対応であるが、こういった福祉の職場に従事される一応スキルのある方ということであるので、例えば社会福祉協議会で運営をしている福祉人材バンクの登録。こういったものの活用であるとか当然ハローワークに対しても私どもとしてもその辺の対応を強力にお願いするということになってくる。さらには日頃各事業者から情報提供をいただければの話ではあるが、従業員の募集をしているという情報についてもさらに詳しい内容を聞きながら、場合によっては事業所との調整役もあり得るのかなと考えるが、なかなか行政でできる範囲も限られているので、できる限り法の許す範囲、もしくは運用上問題のない範囲で対応をとっていかねばならないと考えている。

○松尾 正寿委員

- ・ わかった。まあ行政の対応の限界というのも知ったけど、できればそういうことがないように新しく経営される方々には努力してほしいし、現施設の閉鎖にだけはならないように行政としては指導だけは徹底していただきたいと思う。以上で終わる。

○小野沢 猛史委員

- ・ 皆さんもいろいろ心配やら苦労やらされていることと思う。今回、波多野さんという方が引き継いで事業を進めていただけると。まあいろいろ聞くところによると大変評判のいい方だと。そういう意味ではよかったと思う。一方でそれでめでたしめでたしで終わってはいけないんだろうと。たまたま私は知り合いがいるものでどうなんですかとお聞きしたが、さっぱりわからないという話であった。
- ・ やっぱりこの際、今後こういったことが2度と起きないように、また、しっかりとこの法人が事業運営を続けていけるよう、そのためにもなぜこんなことになったんだろうということは検証すべきだというふうに思うが、この辺についてはどう認識しているか。

○保健福祉部長（平井 尚子）

- ・ 今回の騒動について市としてどう受けとめているかというお尋ねではないかと思うが、今回2つの事象があったと私たちは考えている。

- ・ まず工事の面については、例年にない多くの積雪量があり、3月の末オープンに関して若干工事を急ぐ必要があったとか、工事がうまく進まなかったといったような点があり、そういったものの工事のおくれが一つの原因かなど。
- ・ それともう一つ社会福祉法人善智会の理事長の急激な交代というか、函館にすることができなくなった事情——これは私ども個人的な事情と聞いているが——この2つが重なったために皆さんにも大変御迷惑をかける事態になったのではと考えている。
- ・ 今後は、この日吉コミュニティエリアが順調に運営されるよう、今までもやっていないとは言わないが、今まで以上にきめ細やかな対応、そして皆さんとの情報交換といったものを進めていかなければならないと考えている。

○小野沢 猛史委員

- ・ いろいろあったことは私も答弁のとおりだと思うが、そういった予兆というかそれ以外にも何かもっと早い段階でこういったことに気づけたのではないのかなとも思う。資料が十分整っていないので内容についてはまた別の機会に質問させてもらおうと思うが、さっき説明の中で医療法人社団善智寿会の理事長も交代したと。差し支えなければ名前を聞きたい。

○保健所次長（深草 涼子）

- ・ 医療法人社団の理事長であるが、名前は加藤 裕彬という理事長である。5月3日より飯田先生から引き継いで理事長に変更している。本日の新聞報道にもあったように山梨県の病院で内科医として働いている医師である。

○小野沢 猛史委員

- ・ 今回新しくこうして理事長だとか理事もそうであるが就任された方というのは、さっき函館にゆかりがあると説明があったが、千葉県在住だとか山梨県だとか旭川だとかあまり函館に縁のない方々にかわったなというのがちょっと違和感というか不思議な感じがするが、市が協定書を結んでいるのは善智寿会、その理事長が交代されたということなので、これは改めて協定を結び直すという必要はあるか。

○地域包括ケア推進課長（小棚木 大輔）

- ・ 医療法人社団の理事長が変更となることについての手続きについてのお尋ねかと思うが、法人から代表者である理事長の変更届を提出してもらうことにより、引き続き、事業協定に基づき運営を継続することができる。

○小野沢 猛史委員

- ・ それと株式会社ハーモニーの新しい代表取締役役に就任された早川さんであるが、波多野さんにかわった経緯というのは当委員が質問して、そういうことだったのかなと思ったが、この方はどういう経緯で就任することになったのか。

○保健福祉部長（平井 尚子）

- ・ 先ほどのハーモニーの代表者の早川氏については、就任に至った事情というのは、私どものほうには今現在、お知らせいただいていないところだ。

○小野沢 猛史委員

- ・ お知らせいただいていないというか、そこは大事なところなので皆さんから確認すべきなんじゃないかと私は思うが、そういった一連の経過について、市としてももうちょっとしっかりと最初に言ったように——波多野さんという方は非常に評判がいいんで、なのでよかったと思っているが——なぜそうなんだろうというなことは、きちっと状況を把握しておかないといけないと思う。今後事業が円滑に運営されていくためにもそういうことを含めてしっかりと状況を把握しておくことは大事なことだ。今把握してないのは仕方ないことだとは思いますが、調べてみてほしい。まあいろいろもろもろの資料がまた改めて出てくるんだろうから、また私なりによく読んで、状況をもうちょっと把握しながら改めて別の機会に質問をさせていただく。以上できょうは終わる。

○池亀 睦子委員

- ・ 一通り聞いたが、函館市としてもこういう例はそうそうないので、どういう形でどこまで何をどう委員会に対しても伝えていくのか苦慮しているんだろうと。また、なかなか確認が取れない状況もあったりして、そういう状況は私としては理解しているつもりだ。
- ・ 法人に認定されるにはそれなりのことが認められて法人になっているわけで、これだけ社会をいろいろと影響させたということに関し、市が唯一しっかりとと言えることは、法人としてのしっかりとしたあり方というその辺なのかと。
- ・ 中身に関しては、いくら行政だからといっても——補助金の整合性だとかはしっかりと問うていけるんだろうけど——人事とかに介入していけるのかと言われればなかなか難しいと思っている。
- ・ ただ、やはりほかの委員から出たように今後どうなっていくのかというところで、延期になるという建物の不備、外構の不備、これは全部クリアしていると。ただ勤めている職員から直接聞くと、建物はまだまだ床が上がってきているなど不備があるようなことも聞いてはいる。安心して入居できるのかということも心配ではあるが、市としては金曜日に行って来て、中も見に来てと。そこはしっかりと信用していく。
- ・ どこまで行政として法人に対して介入していけるのかというところの見解だけ聞きたい。その辺が大事で、ごちゃごちゃになって、市がどこまでどうなんだって追求されたって行政としての限界があるだろうからそこは私はしっかりと確認しておきたい。

○委員長（斉藤 佐知子）

- ・ 法人というのは社会福祉法人のことを言っているのか、医療法人社団善智寿会のことを言っているのか。

○池亀 睦子委員

- ・ 両方である。

○指導監査課長（小松 浩）

- ・ ここは医療法人社団善智寿会、さらには株式会社ハーモニー、そして社会福祉法人善智会というふうになるが、日吉コミュニティに関して申し上げますと、ここに設置している施設、事業所については株式会社ハーモニーと社会福祉法人善智会の2社による運営となっている。
- ・ 株式会社に対しては、市としては指導の権限はない。ただし、事業所に対しての指定権者であるのでこの指定権者の立場をもって、今後適切な事業所の運営、さらには昨今問題となっている安全の確

保だとか従業員に対しての対応だとかこういったところを実地指導ということを通じて適宜対応をとっていくことになるのかなと思う。

- ・ 一方、社会福祉法人善智会であるが、これは法人に対して市が強い権限を持っている。したがって先ほど答弁したが、今回善智会については新設の法人、さらにはこういった一連の事業所に関しての出来事があったので、こういったものを含めてまずは指導監査をきっちりとして、その中でこういった問題、課題があるのか。こういったものを把握しながら、今後の適正な運営に向けての助言もしくは指導、こういったものを適宜対応していくことになるのかなと思う。
- ・ 指導監査については内容に応じて毎年監査する場合もある。優良な運営をしている法人については3年もしくは4年に1回、こういったある程度事業運営内容に合わせて濃密さも変わってくる。いずれにしても社会福祉法人善智会に対しては、新しい法人であるとともに一連のこういった出来事を踏まえて、少し充実した指導監査を実施することで一定の運営が担保されていくのかと考えているところだ。

○池亀 睦子委員

- ・ 行政として入れる部分、入れない部分を確認させてもらった。報道等で私たちも振り回される部分があるので、部局に対して何が聞けるのかというのを確認させてもらった。
- ・ 一番大事なのは、市民が不安に思うことで、市民はそこが住みかであったり、そこで暮らしていく。そのことを踏まえながら行政として市民の不安をしっかりと伝え、解消する。例えば、未来大学の教授が講演した記事を新聞で読んだんだが、大雪の時の情報の共有、発信力が函館市として不足していたんじゃないかと指摘していた。いつになったら除雪が来るんだ、いつになったら雪がどうなるんだとみんなが右往左往した。
- ・ 市民に対して日吉コミュニティエリアを地域包括ケアシステムのモデル地域として今後つくっていくんだと言いつけてきた。きょうは指摘しないけど、なかなかそこにはいけない状況がしっかりとあるので、何を発信して市民に安心してもらおうのかというところも保健福祉部として正しい情報を市民に伝えていく。こういう状況があったが、市としてはこういうかかわりでしっかりと安心できるということを発信していくということが全市民に対して責任があるというふうに思うので、いろんなことが私たちの耳にも入ってきているので、伝えられることをしっかりと伝えるということをお願いして質問を終わる。

○紺谷 克孝委員

- ・ 一つ目は確認であるが、新聞報道だとか先ほどの話の中では、外構工事だとか道路の舗装だとかで2か月の延期と強調されているが、言っているほうと市の受けとめはそれでいいのか、そういう認識なのか教えてほしい。

○地域包括ケア推進課長（小棚木 大輔）

- ・ 外構工事が2か月延期になったことへの市としての受けとめであるが、福祉コミュニティエリアの特別養護老人ホームなどへの受け入れについては、入居や入所を心待ちにしていた方々への影響、その施設に従事されている職員の方々の不安を招く事態になったと受け止めている。
- ・ 外構工事などについては、施設を利用される方の安全面を考慮した上で判断されたものだと伺って

いること、その後6月1日までに入居を再開する旨の確約をもらっていることから工事の進捗状況の確認等を含め、確実に約束が履行されるよう推移を見守っているところである。

- ・ 外構工事の状況であるが、5月7日に着工し、通路及び駐車場の外構の工事が昨日5月27日に完了して、本日検査が行われた後、あした以降、一部芝生を貼るなどの作業を行って、5月31日には全て終了するものと聞いている。

○紺谷 克孝委員

- ・ 外構工事は5月31日ぎりぎりで行われるということだが、私としては疑問に感じるのは、3月24日に開設式ということで私たちも行ったが、その時は4月1日で開設ということで進められていた。時系列で示されていないから詳しい日時はわからないけど、その後3月27日ごろに延期となったが、外構工事が全然進んでいないという中で、3月24日に開設式をやるという話ができるかというのが疑問だ。
- ・ 工事なんていうのは一月も二月も前からおこなわれているというのはわかるはずだ。そういう話が表に出てこないで華々しく開設式をやって、その後に突然延期というのはこれは本当に不自然だ。工事があつたらうるさいとかいろいろ言われるかもしれないが、私は入所するのなら少々の工事をやっても我慢できることだと思うんだが。それ以外にもおこなった理由があつたんじゃないか。
- ・ 私はスタッフのそろい具合だとか入所の募集状況だとかこういうのがおこなわれてたんじゃないかと思う。新聞報道によれば従業員の確保は50人で、新しい理事長は先ほども話があつたとおり千葉から連れて来るんだと。そういうことをやらざるを得ないという状況が今出てきているということは、事前に3月の段階で果たしてスタッフがそれだけいたのかということが疑われる。そういうことを市がどのように確認していたのか。そういうことも原因じゃないかと思う。
- ・ あと入居者が70人程度というけれど、果たして3月末の時に入っている人がいるとかいないとかあつたけど、その時点でどの程度想定できたのか。きちんとつかんでいたのか。なんか外構工事に振り回されているようだけど、原因はもっとほかにあつたんじゃないかと思うけど市はどういう認識か。

○指導監査課長（小松 浩）

- ・ 特養を含めて日吉コミュニティ内の施設が4月より前に開設をしたことに無理があつたのではないかという主旨の質問と受け止めさせていただくが、これら日吉コミュニティ内の事業所については、コミュニティの計画が策定された段階でおおよその整備の時期も検討されてきたと考えている。そういった流れの中で、建物的には3月の末をもって完成をしてオープンができるといった運びでスケジュールが立てられていたと。
- ・ 同じコミュニティ内で経営者は違うが地域密着型特養、さらには認知症対応型グループホーム、こちらについては同じタイミングで開設をし、順調に経営をしているといった状況が一方ではある。したがって私どもが外構工事にこだわるゆえは、特養含めた周辺地の現況を確認したが、前段、部長が申し上げたように今回の大雪が大きな影響をしていたのかと。建物ができたからまずは入居受け入れはできるかなという前提でスケジュール作業をしていたと思うが、実際オープンして間もなくしてこういった休止に至ったという経過を踏まえると、この外構工事もしっかりと落ち着いた段階でオープ

ンすべきだったのかなと私なりには感じる部分も正直に言うところである。

- ・ 一方、スタッフの問題もふれていたが、各事業所の指定段階においては、基準上満たされるスタッフ配置ということできちんとした書類の提出を受けている。したがって事業所の指定上は特に問題のないところであるし、当初からこの特養であるが入居者の受け入れも年度内に80人程度受け入れると。平成30年度中に80人程度まで受け入れるという毎月ごとの受け入れ数の想定の中での組み立てであるので、スタッフの問題、さらには入居者の月ごとの受け入れを通じてみると、今回のオープンについては——外構工事は別だが——無理な予定ではないと受けとめている。

○紺谷 克孝委員

- ・ 少し歯切れの悪い答弁で外構工事だけがおくれていると整っていないということだが、全体的にみれば外構工事がおくれているというのは3月24日以降でなきゃわからないということではない。ずっとおこなわれていなければ入居できないということになる。そういうことからみても疑問を感じる。
- ・ スタッフについて、先ほどの話では千葉から15人から20人くらい確保するということが、このスタッフはどういう職種か。今いる50人は確保できたというのはどういう職種の人たちで、足すと65人から70人くらいになるがどういう職種か。

○指導監査課長（小松 浩）

- ・ スタッフの内訳であるが、相談員であるとか看護師、ドクター、機能訓練士、メインとなるのは介護職員である。基準上は満たせても実際ここは定員が100名であるので、100名の定員を対応するとなれば基準以上にスタッフが必要だということも他の施設の現状をみるとあるかと思う。
- ・ せんだっての新聞報道で、波多野新理事長が9月までに満床にすると。こういったことを踏まえると、今の指定基準上の配置の数よりもさらにこういった数字が必要になってくるとの法人側の考え方だろうから、確かにスムーズな入所者の対応、運営、こういったことを考えると職員数は多いことにこしたことはないと思うが、繰り返すが指定時には指定基準上の職員数は満たしていたけれども今後満床にするにあたっては、さらに10人から20人、こういった程度の職員が必要になるという法人側の考え方だ。

○紺谷 克孝委員

- ・ まあ内訳はよくわからないということだ。だいたいそろえるだろうということを予想しているというだけだと。6月1日はあと4日後だが、どの程度スタッフがそろっているのか。それから入所者がどの程度になるかということももう4日後なのである程度押さえていると思うが、それはどのようになっているか。

○指導監査課長（小松 浩）

- ・ 6月1日の体制であるが、指定時に届けられているスタッフの数、これは十分満たしているといった状況であるし、6月の受け入れ数を法人側では20人程度と考えているようなので十分対応していけるのかなと考えている。

○紺谷 克孝委員

- ・ そうすると6月1日は20人くらいの入居を予定しているということだ。それからスタッフは指定の

数は何人か。

○指導監査課長（小松 浩）

- ・ 指定時にはオールスタッフで43人という届け出があったが、5月25日時点で42人というふうに報告を受けている。なお、5月中にさらに3人程度採用する予定と伺っており、当初届けられている43名はクリアできるのかなと考えている。

○紺谷 克孝委員

- ・ 新聞報道では50人は確保したということが書いてあったが、どうなのかと。二月おくれた開所にしては随分低いレベルでの開所だと思う。全体的なおくれがこういう面でもあったんじゃないかということは十分想定できるんじゃないかというふうに思う。
- ・ 最後にもう一点質問しておきたいが、4・5月の経費について、先ほどの経過報告では4月分だけ賃金を払ったとの報告があったが、これはどの程度の金額なのか。それから4・5月に入所者が一人もいなくて人件費中心に支出が相当大きくなっているんじゃないかと思うので、それはどの程度なのか。そしてそれとあわせて、事業計画なり予算についても見たということなので、今年度の予算が二月分は人権費や維持費なんかの支出のみだが健全にやっつけていけるのか。これは後ほど資料が出てきたら議論になるかもしれないが、今の時点できちんとやっつけていけるのかの健全な収支見通しとなっているのかを確認したのかこの点について聞きたい。

○指導監査課長（小松 浩）

- ・ 2か月のおくれでの影響といった主旨の御質問かと思うが、一番最初の事業収支計画書を拝見すると確かに現時点と比較すると2か月おくれを取っている。こういったことから、当然入所の受け入れがないということで介護報酬の減収、これは間違いないところだ。
- ・ したがってこれまでの先方の2回ほどの理事会の中で、この平成30年度予算についてはこの2か月のおくれを踏まえて、改めて事業の収支・予算、こういったものを広聴しているところである。拝見する中では確かに当初と比較をするときつい状況なかなと思うが、波多野新理事長が9月に満床にするという見解もあるので、こういったところが実現してくるとある程度おくれの解消、取り戻しができるのかなと受け止めているところである。

○紺谷 克孝委員

- ・ 委員会として資料を要求しているので、資料が出てきたらこの問題についてはまた引き続き行っていきたいと思う。以上で終わる。

○委員長（齊藤 佐知子）

- ・ 理事者におかれては、本日の質問の趣旨を踏まえ、今後の対応を進めていただきたい。
- ・ 理事者は退室願う。

（保健福祉部退室）

- ・ 議題終結宣言

2 その他

○委員長（齊藤 佐知子）

- ・ 次に、2のその他だが、各委員から何か発言はあるか。(なし)
- ・ 散会宣告

午前11時10分散会